

第1回三重河川流域委員会 議事要旨

日 時：平成20年3月17日(月) 15:35～17:25
場 所：ホテルグリーンパーク津 6階 葵・橘・藤

1. 開会

2. 挨拶(中部地方整備局、三重河川国道事務所)

3. 委員紹介

4. 議事

(1) 三重河川流域委員会設立について

三重河川流域委員会規約(案)及び三重河川流域委員会運営について(案)を説明し、内容確認のうえ了承され、3月17日を期日として施行することで、承認された。

(2) 三重河川の紹介

鈴鹿川、雲出川、櫛田川、宮川の計画策定状況及び四川の概要を説明。

(3) 雲出川水系河川整備計画(大臣管理区間)策定に向けて

雲出川の現状を説明し、主に次のような意見をいただいた。

- ・ 雲出川流域の歴史・文化について、北畠遺跡等の国史跡や景観ということにもふれていただきたい。
- ・ 河川水辺の国勢調査など、精度の高い基礎情報を用意していただきたい。
- ・ 小戸木の開口部は早く解決することが必要である。
- ・ 昔は、笠松頭首工より下流は雑木林であったが、現在は整備が進みましたが、木の間引き方について考えていただきたい。
- ・ ヨシ原、樹林や重要湿地である河口干潟等は鳥にとって必要だけど治水面との考え方とどのように整理できるかが課題である。
- ・ 香良洲地区は台風等の治水面で重点的な対策が必要である。
- ・ 最大取水量など利水に関する情報について見せていただきたい。
- ・ 水質データはまばらに取られているので、もう少しまとまったデータをとっていただきたい。
- ・ 生き物にとって連続性が大事なので、それを考えながら整備を進めていただきたい。
- ・ 中流部の開口部による遊水機能のバランスがポイントになると考える。
- ・ 利害関係者とは早期に課題を整理し、調整していくことにより、スムーズに進むと考える。
- ・ 自然の遊水地機能が治水上のポイントであったと思うが、周辺開発と開口部をどうしていくかが、治水上の課題となる。
- ・ 利水と治水を折り合いをつけていくことが必要である。

- ・ 河道内樹林の今後をどうするかが課題であるが、連続性を保つことが重要であることから、魚道についても対策を講じることが必要である。

(4) 今後の予定

次回の流域委員会は、5月以降に開催することを確認。

5 . 閉会